

雌牛のブーコラ (アイスランド)

昔むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。ふたりには、男の子がひとりありました。

おじいさんとおばあさんは貧しくて、雌牛を一頭かっているだけでした。雌牛の名前は、ブーコラといいました。

あるとき、ブーコラが子牛を生みました。おじいさんとおばあさんは、喜んで、だいじに世話をしました。ところが、とつぜん、だれかがブーコラをさらって行ってしまいました。おじいさんとおばあさんはブーコラをさがしましたが、どんなにさがしても見つかりません。そこで、男の子をよんでいいました。

「ブーコラをさがしてきておくれ。見つかるまで帰ってくるんじゃないよ」

男の子は、お弁当と新しいくつをもらって、ブーコラをさがしに出かけました。

男の子は、どこまでもどこまでも歩いていきました。とうとうつかれてしまって、草の上ですわりこんで、お弁当を食べました。食べおわると、大きな声でよびました。

「おうい、ブーコラ。生きてるんなら、ひと声鳴いてよ」

すると、はるか遠くで、「モウ」とひと声鳴き声がありました。

男の子は元気になって立ちあがると、また歩いていきました。どこまでもどこまで歩いていきました。とうとうつかれてしまって、また草の上ですわりこんで、お弁当を食べました。食べおわると、もういちどよんでみました。

「おうい、ブーコラ。生きてるんなら、ひと声鳴いてよ」

すると、さつきよりずっと近くで、「モウ」と鳴き声がありました。

男の子は、また元気になって歩いていきました。どこまでもどこまでも歩いていくと、大きな岩山の上に出ました。男の子はつかれてしまって、すわりこんでお弁当を食べました。食べおわると、大きな声でよびました。

「おうい、ブーコラ。生きてるんなら、ひと声鳴いてよ」

すると、岩山のすぐ下で「モウ」と声がしました。

男の子は、大急ぎで岩山を下りていきました。すると、大きな岩あながありました。男の子は、岩あなに入っていきました。どんどんおくへ入っていくと、太い柱があって、ブーコラがつかれていました。男の子は大喜びしてつなを解くと、ブーコラを引っばって岩あなをぬけだし、家に向かいました。

しばらくして、ふりかえってみると、後ろから、おそろしく大きなトルル女が、トルル娘を連れて追いかけてくるのが見えました。トルルたちは足が速くて、たちまち追いついてきました。男の子は、

「ねえ、ブーコラ、どうしたらいい」とたずねました。ブーコラはいいました。

「わたしのしっぽの毛を一本ぬいて、土の上に置きなさい」

男の子が、ブーコラのしっぽの毛を一本ぬいて土の上に置くと、ブーコラはその毛にむかっ  
ていいました。

「空を飛ぶ鳥でなければこえられないほどの大きな大きな川になれ」

たちまち、男の子とブーコラの後ろに大きな川が現れました。男の子は、ブーコラを引っぱってどんどんにげました。

トロール女は、川岸まで来ると、

「こんなもの、平気、平気」といって、トロール娘にいいました。

「家に走ってかえって、父さんの大きい雄牛を引っぱっていいで」

トロール娘は、家に走ってかえって、とほうもなく大きい雄牛を引っぱってきました。雄牛は、たちまち、川の水を飲みほしてしまいました。そこで、トロールたちはまた追いかけてきました。もう少しで追いつかれそうになったので、男の子は、

「ねえ、ブーコラ、どうしたらいい」とききました。

「わたしのしつぽの毛をもう一本ぬいて、土の上に置きなさい」

男の子が、ブーコラのしつぽの毛を一本ぬいて土の上に置くと、ブーコラはいいました。

「空を飛ぶ鳥でなければこえられないほどの大きな燃える山になれ」

たちまちふたりの後ろに、大きなたきぎの山ができて、ぼうぼう燃えはじめました。男の子はブーコラを引っぱってどんどんにげました。

トロールは、燃える山まで来るといいました。

「こんなもの、平気、平気。娘や、家に走ってかえって、さっきの父さんの雄牛を引っぱっていいで」

トロール娘は家に走ってかえって、さっきの雄牛を連れてきました。雄牛は、さっき飲んだ川の水をぜんぶはきだして、たちまち火を消してしまいました。トロールたちはまた追いかけてきました。もう少しで追いつかれそうになったので、男の子は、

「ねえ、ブーコラ、どうしたらいい」とさげびました。

「わたしのしつぽの毛をもう一本ぬいて、土の上に置きなさい」

男の子が、ブーコラのしつぽの毛を一本ぬいて土の上に置くと、ブーコラはいいました。

「空を飛ぶ鳥でなければこえられないほどの高い高い山になれ」  
たちまち、ふたりの後ろに、高い山がそびえました。

トロール女は、山のふもとまで来るといいました。

「こんなもの、平気、平気。娘や、家に走ってかえって、父さんの大きい錐を持つといいで」

トロール娘は家に走ってかえって、大きな錐を持ってきました。トロール女は、その錐でキリキリ、キリキリ、山にあなを開けはじめました。けれども、なかなかあなは開きません。そのまに、男の子とブーコラはどんどんにげました。やっとあなが開くと、トロールたちは、急いであなにはいこんで、山を通りぬけようとなりました。ところが、あながせまいので、なかなか前に進めません。しまい、進むこともひき返すこともできなくなってしまいました。トロールたちは、いつまでもぐずぐずしているうちに、とうとう石になってしまいました。

男の子は、無事、ブーコラを連れて家に帰りました。おじいさんとおばあさんは、大喜びしましたとき。